

# 北河内の実態に見合った支援学校を

## 「通学区域割の変更」みんなで考えました

# 意見交流会で一人ひとりが発言しました！

### 北河内の障害児教育を発展させる会 第5回総会

6月29日(土)午後1時30分より、第5回総会をラポールひらかたにおいて行いました。第1部として第5回総会を行い、活動報告やこれからのとりくみなどが拍手で承認されました。第2部の意見交流会では参加者一人ひとりが発言し、支援学校や支援学級の現状などを交流し、そして「早急に児童生徒数増に見合った府立支援学校の新校整備を求める請願」にがんばってとりくんでいくことが確認されました。総会には22人が参加しました。

総会には今年度も伏見枚方市長からお祝いのメッセージをいただきました。また来賓として、枚方市議会議員のつづみ幸子さんがご出席いただきました。



第5回総会には22人が参加しました

第1部の総会では、まず会長の稲垣さんからあいさつがありました。そして来賓あいさつ、メッセージの紹介の後、鈴木事務局長から経過報告やこれからのとりくみ、役員案などが提案されました。続いて会計報告と予算案の提案などがあり、すべて拍手で承認されました。

第2部の意見交流会では、まず事務局の坂東さんから知的障がい支援学校の児童生徒数の動向やその課題点を指摘する豊富な資料が示され、参加者みんなで学習を深めました。そして府教委が1月15

日に発表した「2020年度大阪府立知的障がい支援学校における通学区域割の変更について(通知)」の内容について改めて確認しました。その後、参加者からさまざまな角度、立場から発言がありました。支援学校や支援学級が抱える課題点、通学区域割が変更になることで考えられる具体的な子どもへの影響などが出されました。またビジョンを持つことの大切さや

保護者も含めたたくさんの方を上げていく大切さなども指摘されました。中でも最も印象に残ったのは、若いお父さんから出された「いったいどこが、だれがこの問題に責任をもつのですか?」「議員さんや教育委員会はどんな役割をもつのですか?」という素朴な質問でした。

最後に今年度も「早急に児童生徒数増に見合った府立支援学校の新校整備を求める請願」署名にとりくみ、5万筆を超える署名を大阪府議会に提出しよう、そして北河内に

もう1校支援学校をつくらせよう、意見交流会を終えました。北河内の障害児教育を発展させる会でも、この請願署名に全力でとりくんでいくことを事務局で確認しました。また街頭署名にもとりくみ、7月28日(日)、8月24日(土)は枚方市駅前、8月6日(火)は枚方市役所前緑道で行いました。詳しくは、裏面に掲載しています。

### 参加者の感想です！

大阪で支援学校が足りないことがよくわかり、出席しないとわからないことを知ることができました。京都市ではこのような話を聞いたことがないので、大阪府の行政の方も現場をよく見ていただけたら少しずつでも変わっていけるのではと思いました。

各立場からの意見が聞けてよかった。通学区域割の変更についてほとんど知らなかったという方にも知ってもらえたよかった。通学区域も学校規模も「支援教育」に値するものにしていけるよう求め続けるには、こうやって集まって交流することがやっぱり必要なことだと思った。

いろいろな立場からの発言があり、よかったと思います。学校の現状、就学前のこと、みなさんと共有することが大切だと感じました。仕方ないという気持ちはわかりますが、もっと怒ってもいいのではないかと思います。

目の前のことと、今後の見通しをもって動いていくこと、両方を考えながらとりくんでいかなければいけないなと思います。枚方子ども発達支援センターを本当にセンターとして機能するものにしていくこと、周りの人に通学区域変更等の問題について知らせていくことをしていきたいと思います。粘り強く、あきらめず！ですね。